

英語科研究プロジェクト

中高連携をとらえた自主教材の開発  
— 「筑駒 Picture Dictionary」の作成（2） —

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

久保野雅史・熊井 信弘・辻 弘・長谷川和則  
稲岡 信之・加藤 裕司・中村 豊

## 中高連携をとらえた自主教材の開発

### — 「筑駒 Picture Dictionary」の作成（2） —

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

久保野雅史・熊井 信弘・辻 弘・長谷川和則

稲岡 信之・加藤 裕司・中村 豊

本研究プロジェクト2年目の研究として次のテーマについて報告する。

#### 1. 中1生徒への語彙指導

— P. D. の作成を通して —

#### 2. 身近なことを英語で表現するための語彙の拡張

#### 3. P. D. を使った言語活動

#### 4. 英米の幼・少年期の子供達の語彙と日本の中学校英語検定教科書の語彙の対比に関する一考察

1. 「中1生徒への語彙指導」では、まず、本格的なP. D. 作成を行わせる前に、教科書のあるレッスンの言語材料にプラスした形で、より活発な言語活動を行わせるための工夫として「通学かばんの中身」を生徒各自に英絵辞典ふうにとまとめさせた実践が紹介される。

次に、グループ単位で英絵辞典作りを行わせた報告がある。これは、学校外・家庭外を対象に題材を決めて作らせたものである。その意味では、1987年度の『研究報告』で示した、「筑駒 Picture Dictionary」の題材領域をまたひとつ征服したといえる。英絵辞典作成後に生徒が書いた「反省点・感想」を分析する中で、この指導のねらいがどのように達成され、また生徒たちがこの作業を通して何を学んだかが見通されている。なお、いずれの実践報告にも生徒の作品例が添えられている。

2. 「身近なことを英語で表現させるための語彙の拡張」では入門期の指導から具体的な実践例が述べられる。とくに語彙指導のために中学1年生の1学期から英和・和英辞典を生徒に持たせ、生徒の学習意欲をうまく引き出している。さらにこうした辞書指導から筑駒 Picture Dictionary 作成へ至る経緯が述べられる。また、目に見えない抽象語の指導にもふれ、豊富な実践例を示している。

3. 「P. D. を使った言語活動」ではP. D. によって学習した語彙をいかにして実際のコミ

ュケーションの場面で使えるようにするかについて実践例をあげて述べている。

#### 4. 「英・米の幼・少年期の語彙と日本の中学校英語検定教科書の語彙の対比に関する一考察」

では日本の教科書にあらわれている語彙と英・米の子供達の語彙の違いについて、質と量の観点から論じている。

# 1. 中1生徒への語彙指導

— P. D. の作成を通して —

長谷川 和則

## 0. はじめに

本校英語科研究プロジェクトとして1987年度に着手した「筑駒 Picture Dictionary」作りの一環として、筆者は本年度（1989年度）担当している中1生徒（43期生）への語彙指導として英絵辞典作りを行った。本稿はその実践報告である。

## 1. 「通学かばんの中身」

新学年度が始まって1カ月程たち、生徒がアルファベットや教科書に出てきたいくつかの単語を学んだ頃、P. D. (= Picture Dictionary) 作成への第一歩として生徒各自の「通学かばんの中身」を英絵辞典ふうにまとめさせた。（5月23日に課題として出し、1週間後に提出させた。）

次の2点は生徒の作品例である（P. 118, P. 119）。

生徒が、和英辞典の助けを借りながらも、自分のかばんの中に入っているものを英語でなんとか説明しようとしているのがよくわかる。綴りの誤りや名詞の単・複の言い方が適切でないものも見受けられるが、生徒の表現意欲がそれを上回っているところを評価してあげたい。

この指導のねらいとしては次の2点がある。

1. 身の回りのものを英語で何というかを知ることによって語彙を増やす。
2. その語彙を使って次のような言語活動ができるようにする。

My \_\_\_\_\_ .      Your \_\_\_\_\_ .  
(name)' s \_\_\_\_\_ .

A : Your \_\_\_\_\_ ?

B : Yes .      My \_\_\_\_\_ .

A : My \_\_\_\_\_ ?

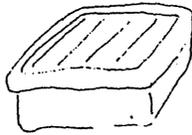
B : No .      My \_\_\_\_\_ .

A : (name)' s \_\_\_\_\_ ?

B : No .      (name)' s \_\_\_\_\_ .

(NEW CROWN ENGLISH SERIES 1, Lesson 3 参照)

(作品例1)



弁当箱  
lunch box



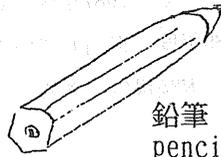
箸箱  
chop sticks



本  
books



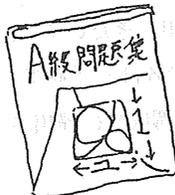
お金  
money



鉛筆  
pencil



very good



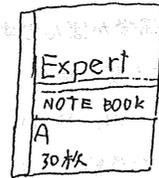
教科書  
text book



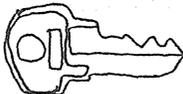
通学カバン

の

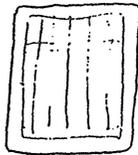
なかみ



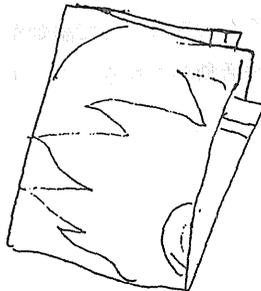
ノート  
note book



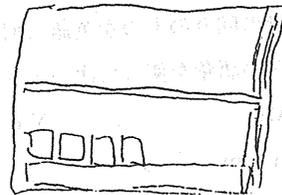
鍵  
key



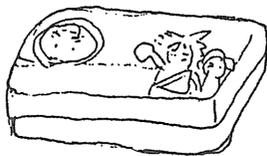
下敷き  
card board



ハンカチ  
handkerchief



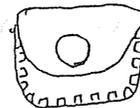
ティッシュ  
tissue paper



筆箱  
pencil case

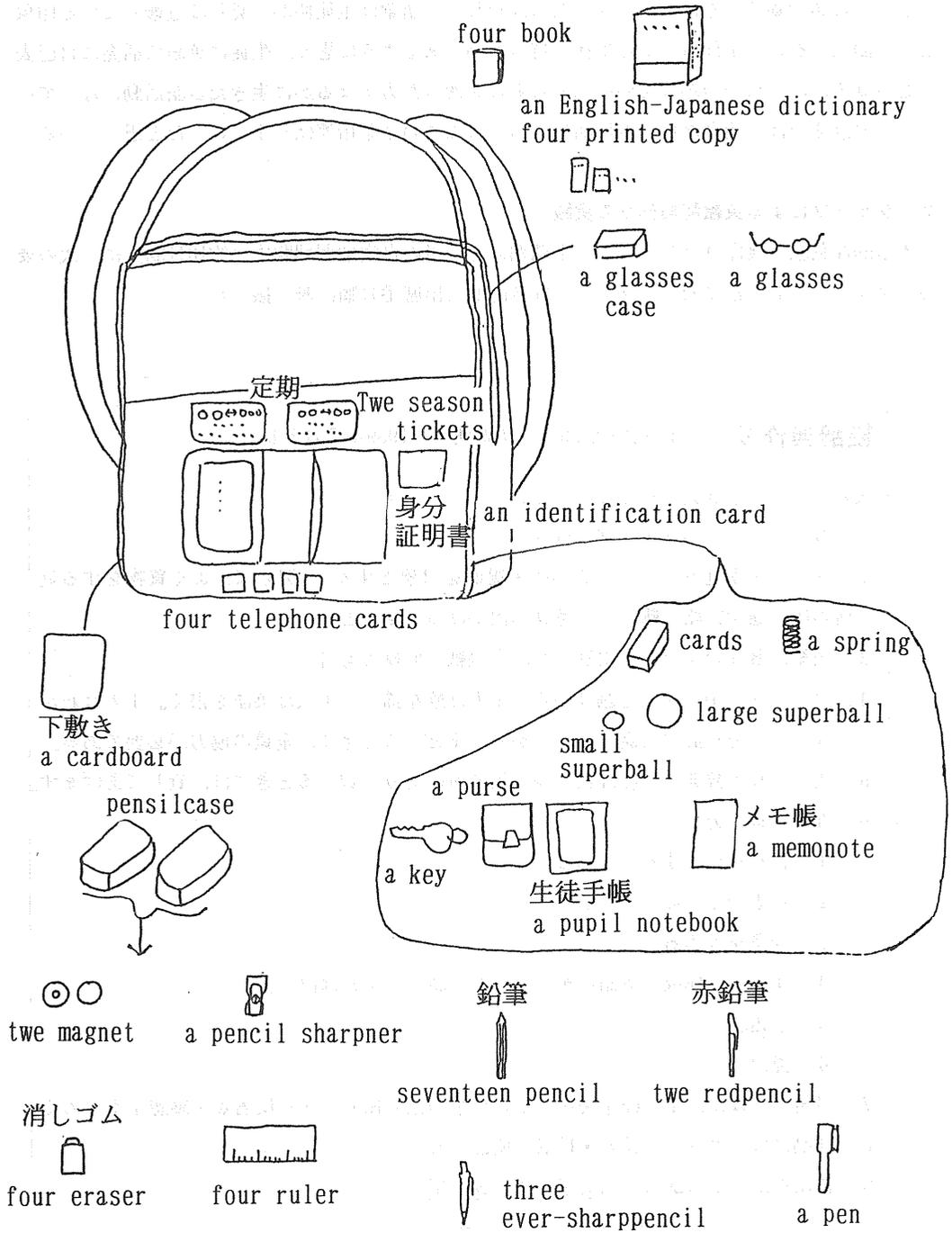


時計  
watch



さいふ  
purse

(作品例 2)



ねらいの2番目で、下線部に名詞を入れて言語活動を行わせる際、教科書に出ている語彙だけでは活発な言語活動はできにくい。何故ならばそれらの語彙は生徒側から見れば遊離している印象を、言語活動を行う主体者である生徒が持つためであるように思う。生徒に英語で活発に自己表現をさせるには、自分のかばんの中にあるものを使った方がはるかに生きた言語活動になっていく。この意味では、活発な自己表現活動をねらったこの語彙指導はうまくいったと思っている。

## 2. グループによる英絵辞典作りの実践

本格的な英絵辞典作りとして、第1学期期末考査後の自宅学習期間中(約10日間)に、次の要領でグループで取り組ませた。グループは教師側で出席番号順に割り振った。

### 絵辞典作り (自宅学習期間 英語課題) 1989年7月5日

次の条件で「絵辞典」を作製しなさい。

1. 3人(4人)のグループで行う。
2. 学校外・家庭外の興味ある場所・場面を対象とする。(例えば、よく買物をする近所の店、通学経路、駅、よく遊びに出かける公園など)
3. 用紙はB5のレポート用紙または方眼紙。何枚でも可。
4. グループの中で仕事を割り振る。1人は絵を描く、1人は英語を書く。1人はわからない言い方を辞書で調べる。しかし、まとめるときには全員の協力が必要である。
5. 大きな和英辞典や、絵辞典は長谷川の所にあり。調べるときには、貸してあげます。
6. 作業の進め方。
  - 1) 何を対象とするか決める。
  - 2) 仕事の割り振り。
  - 3) 作業を進める。
  - 4) まとめ(構成、英語をチェックし、誤りがあれば直す。)
  - 5) 清書。
  - 6) 提出。
7. 最後の1枚に、1)経過説明 2)仕事の割り振り 3)反省点・感想をまとめる。
8. 作品には、クラス・番号・氏名を明記する。
9. 提出期限：7月20日学活終了までに長谷川へ

生徒たちが英絵辞典作りの対象として選んだ場所を見てみると、次のとおりである。

1. 公園（本校の近くの駒場野公園を対象としたものが多い。）
2. 遊園地
3. 店や食堂（百貨店、食料品店、八百屋、運動用品店、自転車店、寿司屋）
4. 駅
5. 電車の中（運転室を含む）
6. 通学経路
7. 街の通り沿いの様子

生徒の作品の中には総ページ数35頁に及ぶ力作や、巻き絵ふうりに仕立てあげたものもあり生徒たちの意気込みが感じとれる。英絵辞典作りには、楽しみながら作業をする中で語彙力増強という指導のねらいがあったわけだが、その達成度がどうかを生徒が書いた「反省点・感想」を読みながら探してみよう。（原文のまま）

- あらゆる分野の英語が分かった。
- 語がふえた。
- 自分たちの身近にある物、例えば樹木とか花の名前など、よくわかってはいなかったが今回のことで覚えられたためになった。
- 今まで知らなかった英語や、自分達で辞典を作る楽しさを感じました。
- 単語を覚える材料になったので良かったと思う。
- たくさんの単語を見つけることができた。
- 1つの駅にずいぶんたくさんの単語あるということがわかった。
- 自転車一つでも、部品とかを考えると多くの単語が出てくるにはびっくりした。もっと調べればもっと多く単語がでてくるのではないのかなと思った。
- 絵で英語を覚えるので覚えやすい。
- 身近なものを英語で言えるようになる。
- 分かりそうなのに、けっこう分からない言葉があり、それらを覚えることができたので良かったと思う。
- 公園の遊ぶものの名前がほとんど聞いたことのない英語だったのでいい勉強になった。
- 学校で習うものの他にも、色々な単語が覚えられ、とても良い学習法だった。
- 知らない単語が書きながら覚えられ、とても良かった。

日常自分の身の回りで目にしているものを意識してとらえなおし、それを英語で何というのかを調べて整理するこの作業を通して、生徒たちは多くの単語にふれることができる。自分の生活の中で出会うこれらの単語（語彙）は、それだけ強く印象づけられ、自分のものとなっていくに

ちがない。

さらに生徒たちの「反省点・感想」を読む中で面白いことに気付く。生徒たちは辞書、とりわけ和英辞典を引いて調べるといった作業をしたわけで、この作業を行っての反応が次のようなことばで表わされている。(引用は原文のまま)

○「辞書に出てないものがあった。」

多くの生徒が所有している入門者向けの和英辞典(例えば「ジュニアアンカー和英辞典」や「ジュニアアプローチ和英辞典」など)には出てないものがあったのであろう。この生徒たちも、もっと大きな辞典を手にして調べれば、探していた語が見つかったかもしれない。「辞書を引いてもものってないからもう引かない」という短絡的な結論へ至ってしまったては進歩がない。このあたりはふだんの辞書指導の中できちんと教えておく必要がある。

○「何度も辞書をひいているうちに辞書をひくコツがわかってきた。」

○「和英辞典の使い方をより明確に理解した。」

○「単語が辞書でうまく調べられるようになった。」

すばらしいことではないか。「英絵辞典作り」と「辞書指導」とをうまく結びつければより教育効果をあげられそうな気にしてくれる。ここの所は、何をどう使い、どういった手順で行ったらよいかを、いちど整理してみる価値がありそうだ。

○「和英辞典で《米》と《英》があって、よくわからなかった。」

「米語」と「英語」との区別をつけるための表示があったわけだが、それをどう読んで、どう活用するのがわからなかったのだろう。これも辞書指導の中で教えることのひとつである。

なかには辞書ばかりでなく図鑑まで調べてまとめたグループもある。

○「調べることがたくさんあったので3人で分配してもかなりの量があり、辞書や図鑑ばかり見てたいへんだった。しかし出来上がった作品は自分としては良く調べられたと納得しており、特に表紙には自信がある。」

英絵辞典を作り上げてみて、英語からの外来語の多さに気付いたグループがふたつある。

○「英語が日本語となってしまった言葉がとてもたくさんあることを知った。」

○「売り場にいろいろな英語があるのでおどろいた。今の日本は和名があるものでもわざわざ英名で呼ぶことが多いと思った。」

日本文化に固有のものを英語で説明するとき、どう言ったらよいかと疑問に思ったグループもふたつあった。

○「今、アメリカではすしがうけているということで、現地でいかなる言葉が使われているかは我々の興味のある事である。そこで調べることにしたが現地でわざわざこのような複雑な言葉が使われているのか、「とろ」という風なように日本語がそのまま使われているのではないかと思った。」

○「あと池川君にふとん屋という単語をむりに調べさせ futon shop という単語を作ったが、

実際会話でつかわれるか心配である。」

英絵辞典作りをグループで行ったことを評価する意見としては次のようなものがある。

○「仕事の割り振りで、絵がうまい人は絵を描き、字がうまい人は字を書き、とても良くいったと思う。」

○「1人で宿題をやるより、みんなでやったほうがたのしくてよかった。」

○「班でまとまって行ったので、あと1日予定していたのが unnecessary になった。班でまとまって行動することの大切さを知った。」

なかには grouping の仕方に対する注文もあった。

○「集まるのが大変になって、億劫になるので、近い人同士で集まれるようにしてほしい。」

### 3. 作品を前にして——今後の指導——

生徒の作品例を紹介するために、いま全作品の中から2点を選ぼうとしているが、どれもよくできていてなかなか決まらない。すべてを紹介できればよいのにとほんとうに思う。生徒たちの書いた「反省点・感想」を読んでわかるとおり、楽しみながら語彙を増やす方法としてこの英絵辞典作りは成功したと言えよう。生徒たちは英語学習を進めていくうえで大切になる多くの事柄にも自分たちで気付くことができた。グループごとに見いだしたこのような発見や疑問は他のグループの人たちとも分かちあい、皆で発見を学び、疑問点を考えるよう指導していかねばならない。またグループ間で作品を交換してお互いの出来映えを比較させることにより、自分たちのグループでは見落としていた語彙や学ぶことのできなかつた語彙を他のグループの作品に見つけ、さらに語彙を増やすこともできよう。出来あがった英絵辞典をもとにして、次のような場面ににおける言語活動を展開することも可能である。

ア. 道案内

イ. 好きなもの・嫌いなもの

ウ. 買い物

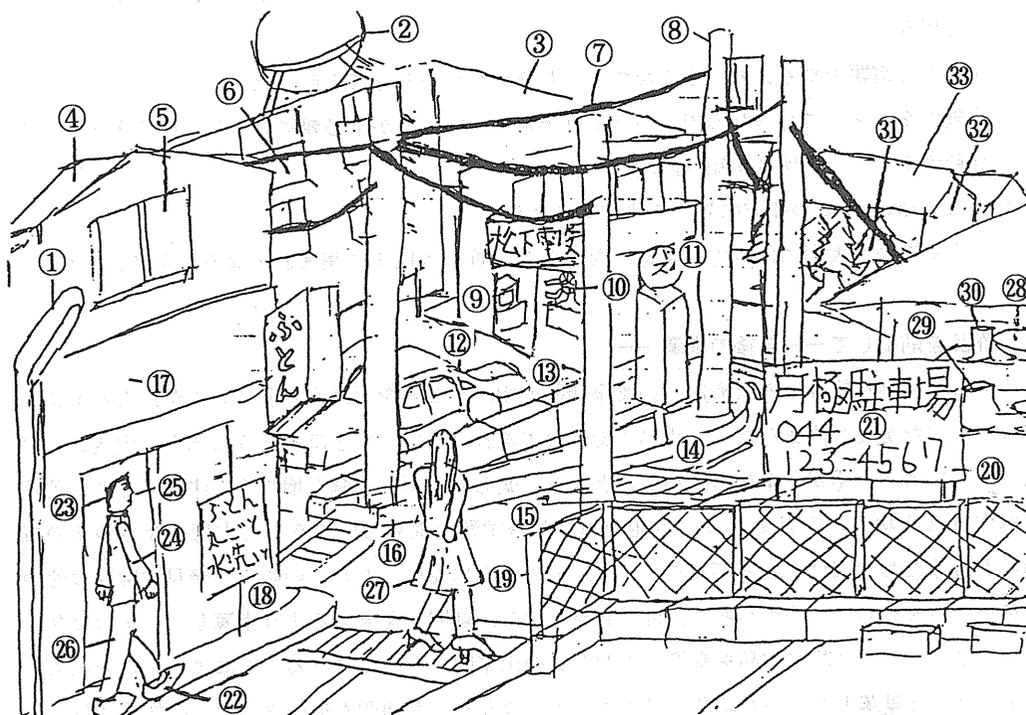
エ. 電車への乗り方を教える

オ. 通学路を伝える

生徒が、自分の手で作りあげた英絵辞典をもとに、英語での自己表現活動を行う日はもうすぐそこまできている。

資料1 作品例1 (伊東の家の近くの交差点と公園の絵)

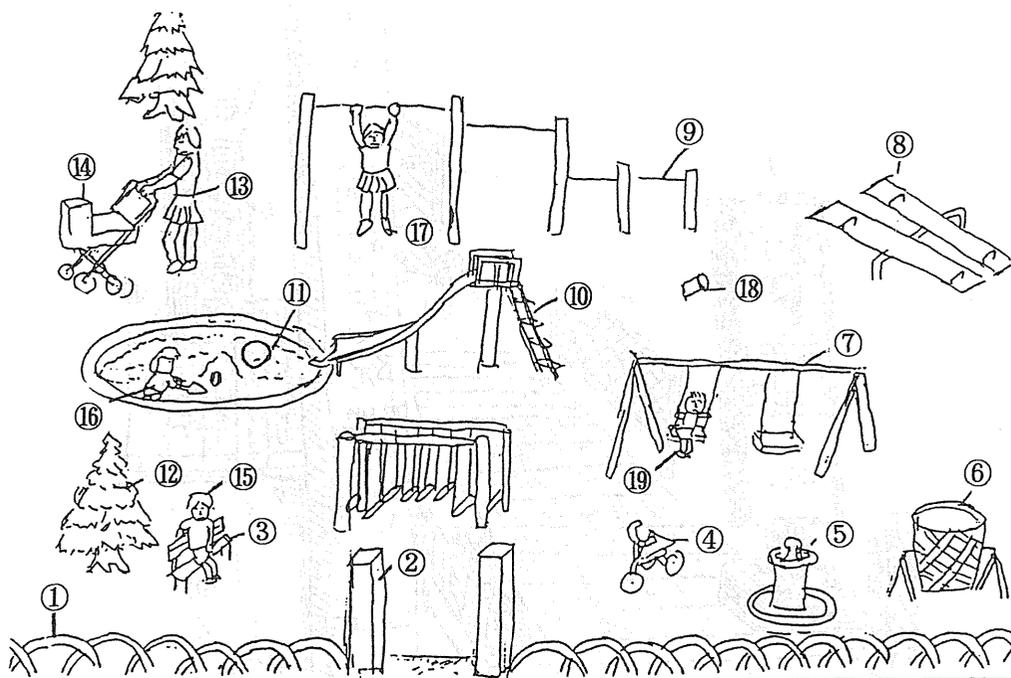
No1



- |                       |                              |                |
|-----------------------|------------------------------|----------------|
| ① light (街灯)          | ⑫ car (車)                    | ⑳ shoes (靴)    |
| ② tank (タンク)          | ⑬ block (ブロック)               | ㉑ hair (髪の毛)   |
| ③ apartment (アパート)    | ⑭ line (線)                   | ㉒ arm (腕)      |
| ④ futon shop (ふとん屋)   | ⑮ pedestrian crossing (横断歩道) | ㉓ face (顔)     |
| ⑤ window (窓)          | ⑯ side walk (歩道)             | ㉔ foot (足)     |
| ⑥ veranda (ベランダ)      | ⑰ wall (壁)                   | ㉕ skirt (スカート) |
| ⑦ electric wire (電線)  | ⑱ poster (ポスター)              | ㉖ dish (皿)     |
| ⑧ telephone pole (電柱) | ㉒ fence (フェンス)               | ㉗ pot (壺)      |
| ⑨ television (テレビ)    | ㉓ signboard (看板)             | ㉘ cup (湯飲み)    |
| ⑩ electric fan (扇風機)  | ㉔ telephone number (電話番号)    | ㉙ tree (木)     |
| ⑪ bus stop (停留所)      |                              | ㉚ house (家)    |
|                       |                              | ㉛ roof (屋根)    |

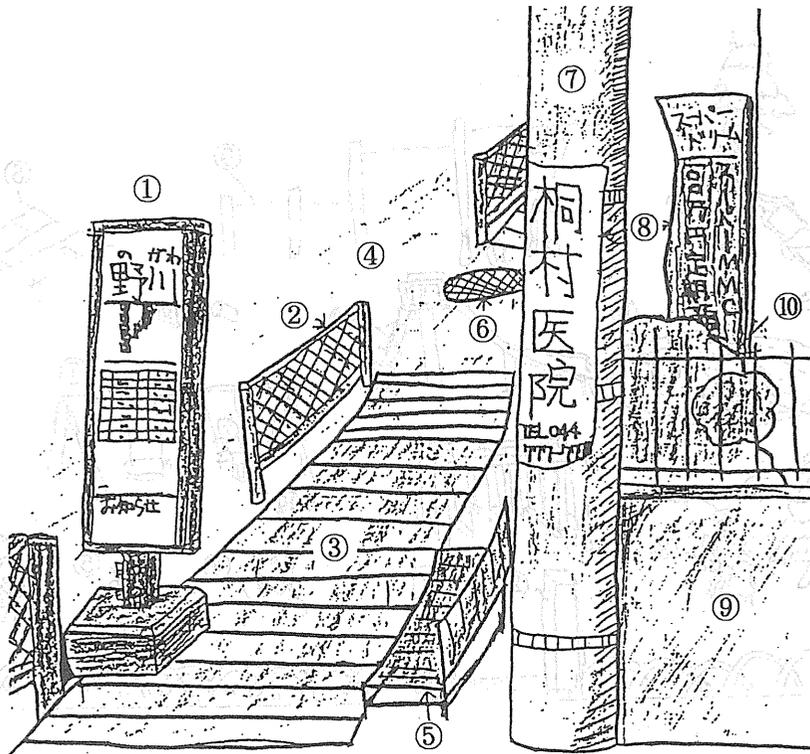
(注) 生徒作品例の単語の綴りは原文のまま掲載

No2

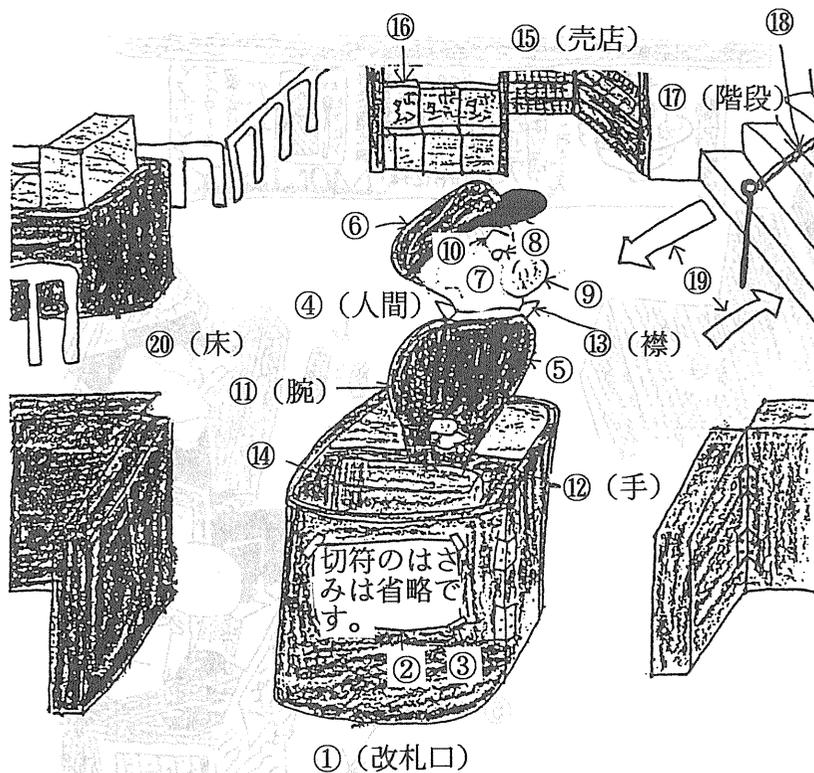


- |                               |                         |
|-------------------------------|-------------------------|
| ① fence (フェンス)                | ⑪ sandbox (砂場)          |
| ② gate (門)                    | ⑫ tree (木)              |
| ③ bench (ベンチ)                 | ⑬ mother (母)            |
| ④ tricycle (三輪車)              | ⑭ baby carriage (ベビーカー) |
| ⑤ drinking fountain<br>(水飲み場) | ⑮ boy (男の子)             |
| ⑥ garbage can (ゴミ箱)           | ⑯ baby (赤ん坊)            |
| ⑦ swing (ブランコ)                | ⑰ girl (女の子)            |
| ⑧ seesaw (シーソー)               | ⑱ can (空き缶)             |
| ⑨ horizontal bar (鉄棒)         | ⑮⑯⑰⑱ children (子供たち)    |
| ⑩ slide (滑り台)                 |                         |

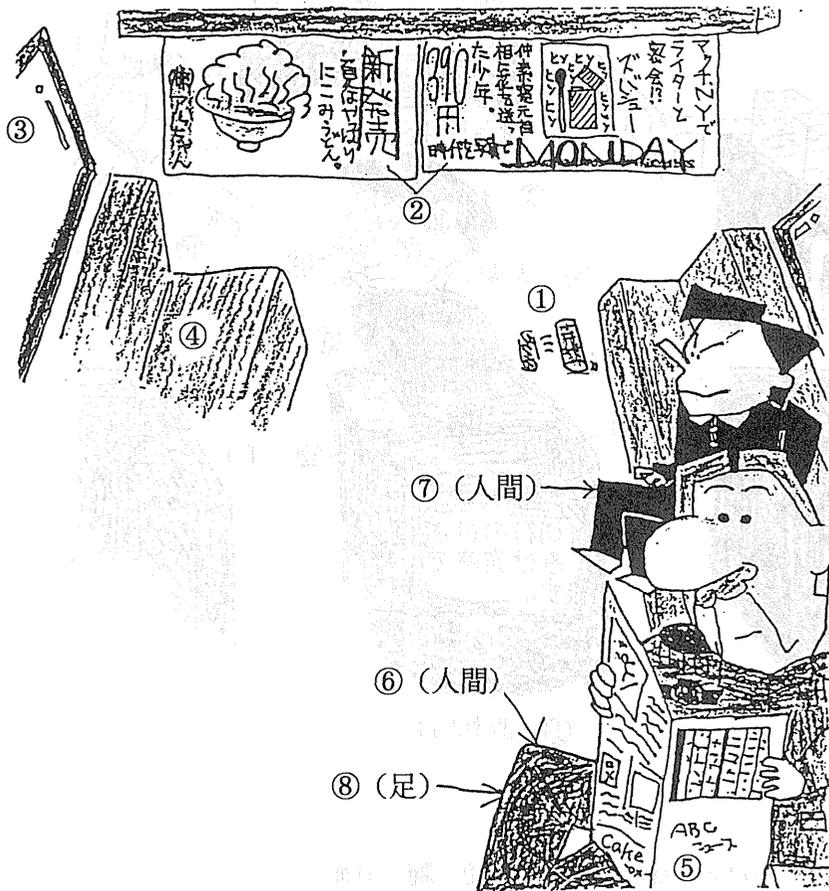
作品例2 (通学経路)



- ① 停留所 stop
- ② 柵 fence
- ③ 道(街路) street
- ④ 道(道路) road
- ⑤ 椅子 chair
- ⑥ マンホール manhole
- ⑦ 電柱 electric pole
- ⑧ 看板 sign, signboard
- ⑨ 壁 wall
- ⑩ (低い) 木 low tree



- |  |  |
|--|--|
| ① 改札口 ticket gate                        | ⑪ 腕 arm                                |
| ② 紙 paper                                | ⑫ 手 hand                               |
| ③ セロテープ (米) scotch tape<br>(英) sellotape | ⑬ 襟 collar                             |
| ④ 人間 man                                 | ⑭ 椅子 chair                             |
| ⑤ 制服 uniform                             | ⑮ 売店 stand                             |
| ⑥ 帽子 cap                                 | ⑯ お菓子 (米) candy (英) sweets<br>(キャンデー類) |
| ⑦ 顔 face                                 | ⑰ 階段 (屋内の) stairs                      |
| ⑧ 目 eye                                  | ⑱ ロープ rope                             |
| ⑨ 鼻 nose                                 | ⑲ 矢印 arrow sign                        |
| ⑩ 眉毛 eyebrow                             | ⑳ 床 floor                              |



- ① 缶 (米) can (英) tin
- ② 広告 advertisement
- ③ 窓 window
- ④ 座席 seat
- ⑤ 新聞 newspaper
- ⑥ ドイツ人 German
- ⑦ 日本人 Japanese
- ⑧ 足 foot

## 資料2 経過・役割・反省等（原文のまま）

### 1 A生徒のあるグループ

#### 1) 経過説明

7/16, 17……3人の予定がなかなかあわないため、この2日間、各自が単語を調べる。

7/18……3人が学校で作業を行う。

・仕事を割り振る ・構成を考える ・下書き（らしきもの）を書く ・清書

※清書が終わらず、各自、家に持って帰り色をつける。

7/19……清書を持ちより完成

#### 2) 仕事の割り振り

絵を描く……→佐藤

英語を書く……→後藤，小室

辞書調べ……→小室，斎藤

#### 3) 反省点・感想

〈反省点〉短かい時間でやったので、多少段取りでいい加減なところが出たことと、集中した時間が短かったことという2点

〈感想〉字の辞典を使って作ったこの辞典は、けっしてよい出来とは言わないけれど、作っている僕たちは、絵辞典の面白さのようなものがわかりよかったと思います。

### 1 C生徒のあるグループ

経過と役割について

#### ①経過

集まった日……7月17日，18日，19日

〈やったこと〉

17日 →調べる語を駒場野公園で調査

（今で、英語を調べる）

18日 →3人で絵作り

19日 →まとめ

#### ②目標の場所

学校 →駒場野公園 →駒場東大前駅

#### ③役割

伊藤……スペルと日本語

今田……アルファベット順に言葉ならべ

岩淵……スペルの確にん

④反省点・勉強点

- ・ 標識・看板が同じスペルだった。 ・ 語がふえた。
- ・ 絵をかくのに苦勞した。 ・ 和英辞典の使い方をより明確に理解した。

(参考文献)

織田 稔・樋口忠彦編著 (1987)『中学英語の進め方』(杏文堂)

## 2. 身近なことを英語で表現するための語彙の拡張

久保野雅史

### 0. はじめに

1987年度に本校英語科研究プロジェクトで「生活語彙（身近で具体的な物の名・動作の表現）」の補強を思いついたのは、アメリカにホームステイした大学生・高校生が非常に簡単な日常会話さえできないという深刻な現状の原因を考える中からであった。

1988年度から中学1年生を担当することになり（現在、彼らは中学2年生）、本格的に日常の英語の授業の中で教科書の欠落部分を補い、生徒達の学習意欲をかきたてるためにと思い行って来た試行錯誤の結果と、これからの計画、展望について整理するのが、本稿の目的である。本稿の一部は1988年度本校教育研究会と1989年度筑波英語教育学会での口頭発表を土台にしている。

### 1. 入門期の生徒の興味をいかにいかすか

誰でも、初めての外国語、それも非常によく用いられる英語を学び始める際には、不安と興味（やる気）が一杯のはずである。最初は次のような気持ちで英語に積極的に取り組もうと思って来た生徒達の意欲が、どうして萎えてしまうのだろうか。

- 英語で外国人と話すことができたら…
- 英語の映画が字幕なしで理解できたら…
- 英語で歌がうたえたら…

生徒達は、英語を道具として音声語として使いこなせるようになりたいのである。しかし、実際の中学校の教育現場ではこういった生徒達の気持ちを伸ばしていけるような状況なのだろうか。後述するが、高校入試のテストで点を取るために文字言語としての側面ばかり重視してはいないだろうか。

生徒の意識調査のために次のようなアンケートをとってみた。（資料1）

Friday, April 15th

（資料1）横の数字は%

Pre - 英語学習アンケート

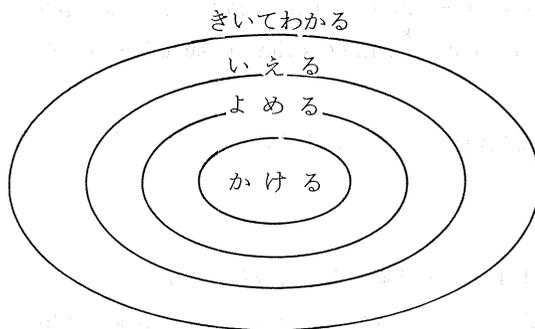
1～15の各問について、それぞれの指示に従って「回答カード」の1～15の各列に良いマークの例のように、なるべく濃い鉛筆(HB程度)を用いてマークしなさい。

1. 中学校で英語を学ぶのを楽しんでいますか。  
0・はい 95      1・いいえ
2. 英語の授業に対して不安感がありますか。  
0・はい 55      1・いいえ
3. 外国(英語圏)に行ったことがありますか。  
0・はい      1・いいえ 83
4. 外国人と会って、話をしたことがありますか。  
0・はい 51      1・いいえ
5. 小学校時代に英語の勉強をしたことがありますか。  
0・はい 79      1・いいえ
6. どのようなやり方で英語を勉強しましたか。  
0・両親から      1・塾で 54      2. 家庭教師      3. テレビ・ラジオ  
4・テープ・ビデオ      5. やったことなし
7. 今、学校以外で英語を習っていますか。  
0・はい      1・いいえ 59
8. これから、塾に入って英語を習う予定はありますか。  
0・はい      1・いいえ 50      2・もう入っている
9. 英和辞典を持っていますか。  
0・はい 80      1・いいえ
10. 和英辞典を持っていますか。  
0・はい      1・いいえ 58
11. ローマ字は読めますか。  
0・はい 95      1・いいえ
12. ローマ字は書けますか。  
0・はい 93      1・いいえ
13. アルファベットを全て発音できますか。  
0・はい 93      1・いいえ
14. アルファベットを書くことができますか。  
0・全て書ける 92      1・部分的に書ける      2・書けない
15. 次の4つの英語の力のうち、どれを一番きたえたいと思いますか。  
0・聞く力      1・話す力 73      2・読む力      3・書く力

## 2. 音声から文字へ

入学試験はどうしても「読む・書く能力」に偏りがちである。その結果、「つづり字を1文字も誤らずに書けるようになることが単語を身につけることだ」というようなことになってしまっているのではないか。テストで単語の綴り字ばかり要求していれば、そういったことに重点をおいて語彙の定着をはかるようになるのは仕方のないことなのかも知れない。しかし、このようにして与える語彙数を徹底的に制限して綴り字の完璧さを求める指導は生徒達の学習観をゆがめてしまうのではないだろうか。

母国語（我々でいえば日本語の漢字を例にとって）の語彙の定着度は次のように図示できるだろう。



漢字を使った表現はかなり沢山理解できるが、いざ書いてみると、意外な漢字が出て来ないことがあるはずである。外国語の場合が、これと全く平行的であるとは言い切れないが、学習した語彙の全てに綴り字まで要求することの不当性がわかるのではないだろうか。

それでは語彙の定着とはどのような方法、順序で行えばよいのだろうか。筆者はこの1年余り、次のような形で実践して来た。

1. ある話題を中心とした具体的名詞、動詞を実物を示しながら何度も聞かせ、音をきけば、その対象物が連想できるようにする。
2. (教師・友人からの問いに対して) 自分の表現したい事物を英語で言えるようにする。
3. 綴り字を見て、それが音声化でき、意味がわかる。
4. 綴り字が書けるようになる。初めは音声との対応関係が規則的なものを中心とし、例外的な綴りを強調することはしない。

上記のプロセスで、1、2の段階では文字は全く不要である。この段階ではかなり多くの語彙を提示し定着させることが可能である。2から3のプロセスにうつる際に多くの生徒が落ちこぼれていく。これをさけるために筆者は次のような方法を試みた。

### 1. アルファベットの読み書き

(漢字に音読み・訓読みがあるようにアルファベットにも原則として2つ以上の読みかたが

あることを示す e. g. Pin[i]/Pine[ai])

## 2. ヘボン式ローマ字の読み書き

(小学校での習得度がまちまちなので未習の者には早朝補習を行い定着をはかる、身近な人名、地名などを材料とする)

## 3. 発音記号の導入、辞書の指導

(未習の語でも辞書がひけて、「発音記号を見れば発音できる」、という自信がつく)

## 4. フォニックスの指導

(音声と綴り字の対応関係が明確なものを中心に指導。初見の語でも発音はある程度見当がつくことをわからせる)

現在は、4の段階を中心に音声と綴り字の関係を指導している。pin / pine, cap / cape等の規則性が理解できれば、cut → \*cuting, swim → \*swimingのようなつづりの不自然さがすぐに理解できるようである。

ローマ字指導や語尾変化規則を一般化した指導についてはいずれ稿を改めたいと思う。

## 3. 辞書指導

語彙指導のために中学1年生の1学期からほぼ全員に学研の「ジュニア・アンカー 英和・和英辞典」を与え、辞書指導を行った。意外だったのは、和英辞典を使用する頻度が非常に高いということである。素朴に「これは英語で何というのだろう」という興味をいだく英語入門期の生徒の意欲をいかすには、辞書指導が不可欠だという思いを強くした。特に最近の和英辞典はフル・センテンス主義で会話例なども多いので是非、積極的にひいてみることを指導すべきである。また、中学生用の語彙10,000語程度にしぼった英和・和英の合本はそれを1冊さえ持っていればほとんどの用が足りるので生徒たちにとってはとても心強いものとなるはずである。

生徒が興味を持ったことをきっかけとして教室で辞書から色々な情報をひき出すという作業を、日常よく行っている。1時間で最低1回は全員で辞書をひく作業を行っている。無理に辞書ひきのトレーニングをしないでも、調べたくなる題材を与えてやれば、生徒は自然に辞書がひけるようになるものである。

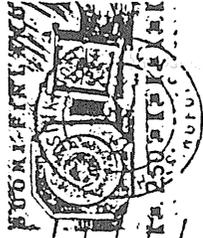
家族と一緒に海外旅行に出た生徒から来た絵葉書と、彼が辞書を片手に行った会話をまとめたレポートの一部を紹介したい。(中学1年終了時の春休みの作品である)

22. Mär. 1936

Dear Mr. Kubono  
How are you?

Now, I am at the airport  
of Helsinki, Finland after  
13 hours' flight. I passed  
over the North Pole.  
I thought that the earth  
is rather small.  
I spoke English a lot  
on board and here.  
I will be in Rome  
soon.

Shota Tanaka



PAR AVION  
LENTOPOSTI  
FLYGPOST

Mr. Masashi Kubono

3-153, Honcho-dori,

Tsurumi-ku, Yokohama

Japan 230

AIR MAIL

(資料2)

IN A CABIN OF FINNAIR (from Tokyo to Helsinki)

\* When I go on board

St: Good morning. Welcome on board.

S: Good morning.

\* When the airplane takes off

St: Fasten your seat belt whenever you are seated.

\* Signs

No Smoking

Exit

Crew Only

Fasten Your Seat Belt

Vacant

Life Vest Under Your Seat

Occupied

} toilet

St: Would you like something to drink?

S: Yes. Orange juice please.

St: Here you are.

S: May I have a glass of coca-cola?

\* I found that the screen had not been drawn down when the movie started. I was going to say...

S: You have forgot to draw down the screen, don't you?

Could you pull the screen down? I'd like to watch movie.

\* I wanted to know where we were flying.

S: Where are we about now?

St: (pointing the map) Here.

S: Oh, yes. Thank you.

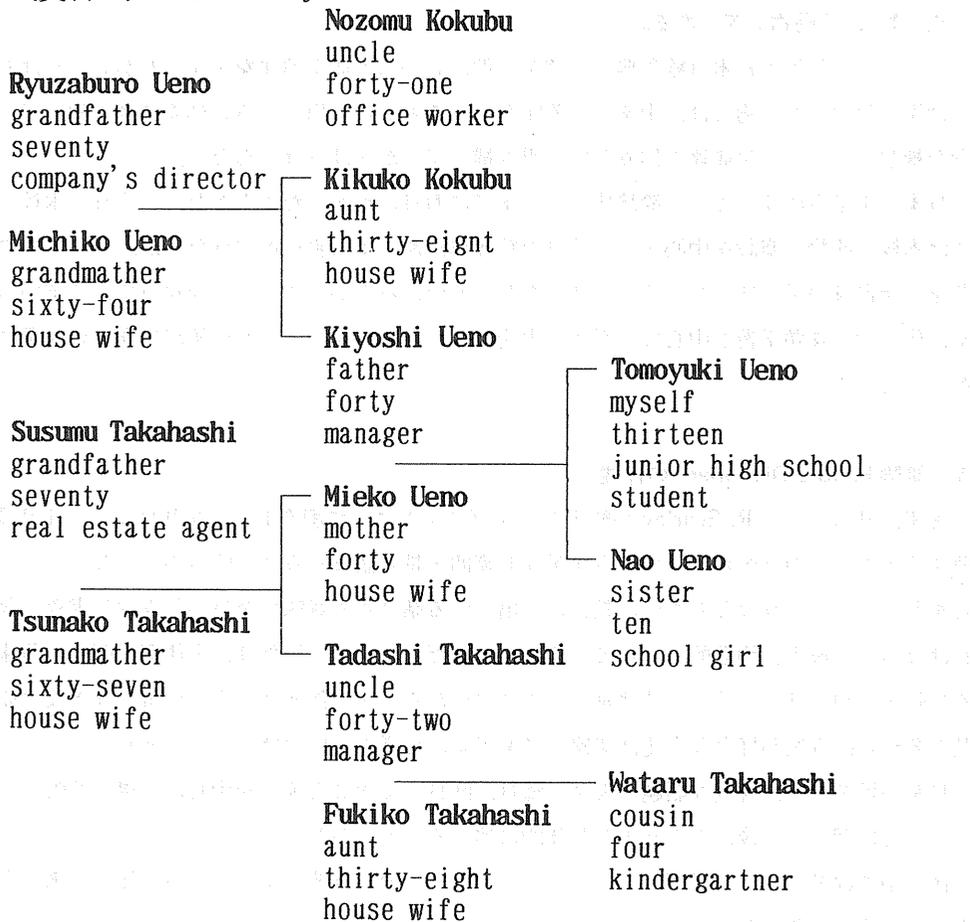


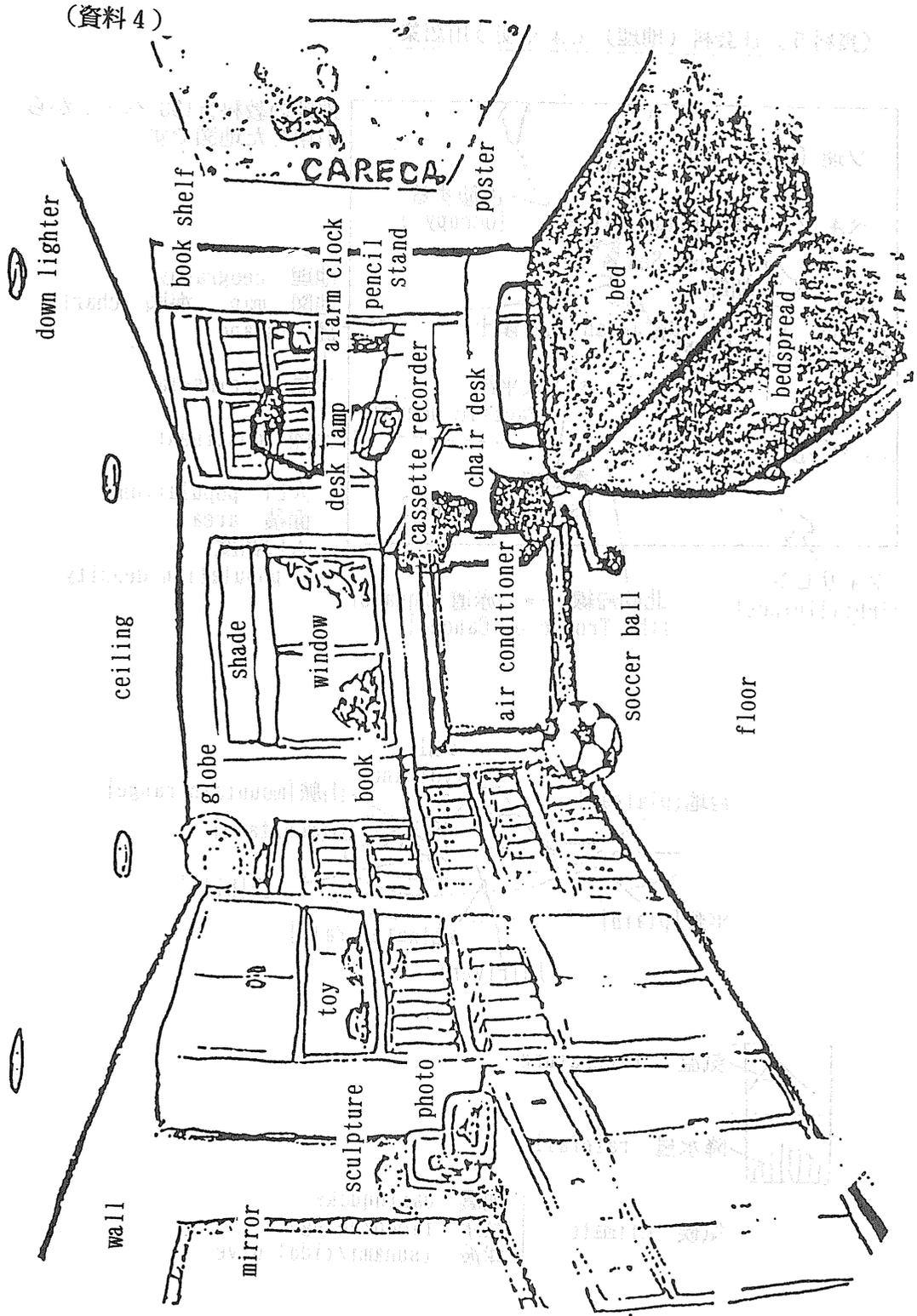
中2 1学期・期末休み：私の学校

夏休み：続・私の学校

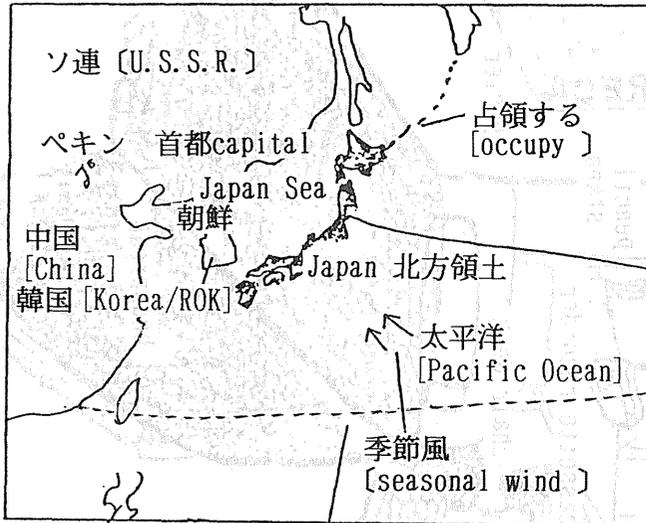
この夏休みの続課題からは従来と少しやり方を変えた、生徒の有志をつのり、P. D. 編集係を集め、その生徒達が項目の設定、集めた資料の分類・整理を行うというものである。これで名実ともに「生徒自身の手で作る」生徒のための Picture Dictionary となるわけである。(資料9)

(資料3) Family Tree





(資料5) 社会科 (地理) でよく使う用語集

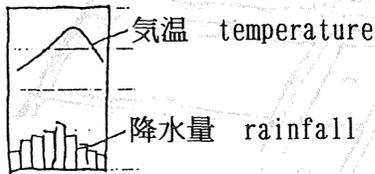
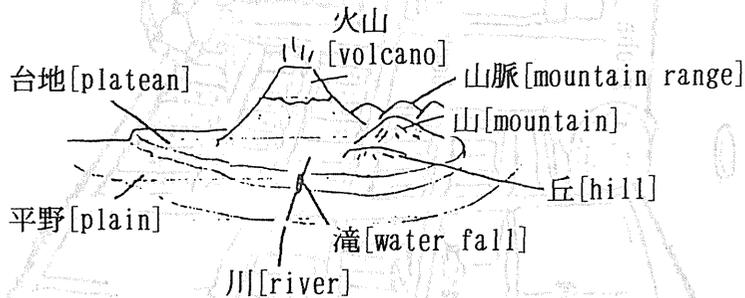


地理の教科書133 ページから引用した地図です

- 地理 geography
- 地図 map 海図 chart
- 島 island
- ↓
- 半島 peninsula
- ↓
- 大陸 continent
- 人口 population
- 面積 area
- 人口密度 population-density

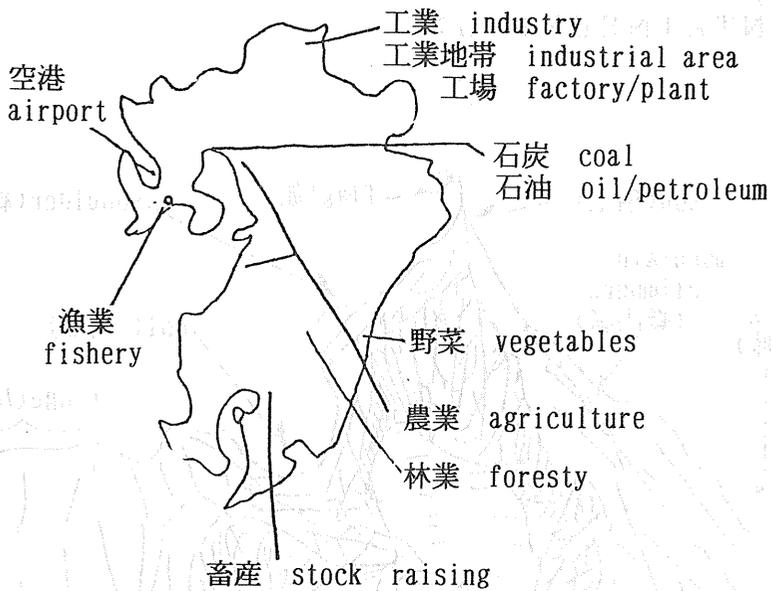
フィリピン [Phillipines]

北回帰線 → 赤道 [Equator] [the Tropic of Cancer]



気候 climate

- 地震 earthquake
- 洪水 flood/deluge
- 津波 tsunami/tidal wave



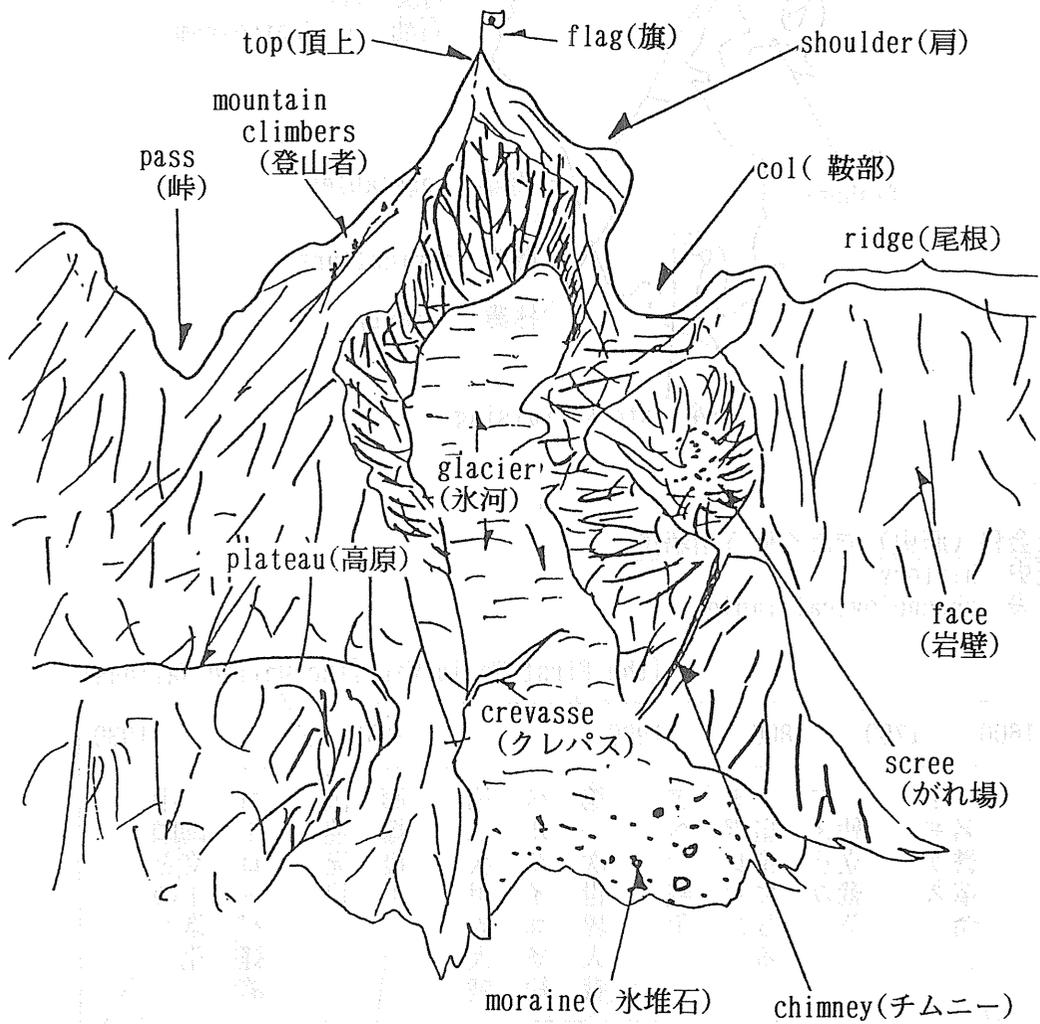
社会科 (歴史) でよく使う用語集

歴史 history

年表 chronological table

		[the First World War]			[the United Nations]			
1600	1700	1800	1900	1945		1989		
イギリス革命	アメリカ独立戦争	ナポレオン皇帝になる	アヘン戦争	第一次世界大戦	原爆投下	国連発足	ヨーロッパ経済	中国との外交正常化
革命 [revolution]	独立 [independence]	皇帝 [emperor]	戦争 [war]	原子爆弾 [atomic bomb]	条約 [treaty]	[economy]	[diplomatic relations]	

(資料6)  
<MOUNTAINEERING>



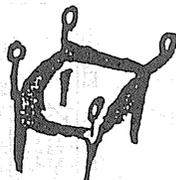
<CLIMBING TOOLS>



ice ax  
[ピッケル]



piton  
[ハーケン]



crampon  
[アイゼン]



a rope  
[ザイル]



hammer  
[ハンマー]

～山に関する用語～

・山火事 forest fire



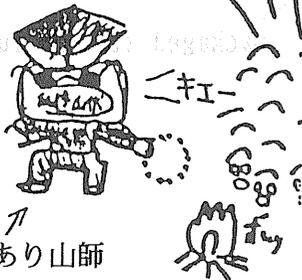
・山彦 (こだま) echo



・山伏 Japanese Buddhist hermit  
仏教徒 世すて人

・山師 speculator  
投機者 だふ屋  
相場師

↑  
山伏であり山師





(資料 8)

夏休みの課題について (July 20, 1988)

英語科 久保野 雅史

下記の 8 項目を「夏休みの課題」とする。

- 記
1. Penmanship : p. 21~27を除いて残り全て
  2. ニュークラウン 夏休みの友
  3. NHK ミニ英会話～とっさのひとこと～ Part 3
  4. 副読本 : 

Po-Po (Grade 1)	}	Oxford University Press
John and Paul Go to School (Grade 2)		
  5. 英語の歌を 1 曲おぼえてくる : 歌詞を筆写し、楽譜のコピーを添付すること。
  - ⑥. 「自分の勉強部屋」の絵を描き (当然、彩色をほどこす)、身のまわりにある物の名前を英語で書き込む。  
← 1 学期に配った「アメリカの絵本」風に。
  - ⑦. 家系図 (Family tree) を作成する : 祖父母、親戚も含んで

(e.g.)

〈 brother 〉	〈 続柄 〉	}	各人について英語で記入すること。
Atsushi	名前		
(twenty-five)	(年令)		
student	(職業)		

(資料9)

筑駒

## PICTURE DICTIONARY

# 編集係からのお知らせ

第1号

1989. 7. 20 (木)

筑駒PD編集係より、夏休みの課題についてお知らせします。

7月17日に編集係の会合を開き、『期末休みの課題』として提出されたレポートを整理した結果、以下の部分を補足することにしました。学級ごとに調べる内容が違います。

**A 組** 施設…1；1号館

2；6号館

3；体育施設

4；その他の校舎外の施設（藤棚etc.）

**B 組** 行事…1；校外指導&田植え

2；文化祭

3；音楽祭&弁論大会

4；体育祭&ロードレース

**C 組** 行事…1；入学式&卒業式

施設…2；2，4，7号館

3；3号館

4；5号館

注意

各クラスの1～4のうち2個選択する。ただし、「1号館」は事務室と校長室と会議室と用務員室と相談室と印刷室といった具合で、施設の場合はその施設全体について調べる。体育施設と校舎外の施設は全てについて調べること。

1989 4 2期 筑駒PD編集係 (7/17)

顧問…久保野雅史先生

2A 青木 哲

2B 和田 俊憲

2C 測 圭吾

よろしくお願ひします。

編集係募集中

現在、編集係は各クラス1名ずつしかいないので編集係をやりたい人は久保野先生に申し出て下さい。

★ 前回(春休み中)集ってくれた人で、今回出席できなかった人も、次回からは「編集会議」に参加して下さい。9月上旬にはメンバーを固定したいと思います。(MK)

## 6. 目に見えない事（抽象語）の補強

言葉というのは、全て目に見える具体的なものを表しているわけではない。今までのやり方では、具象話の補強しかできないのではないか、という意見もよく聞かれる。この点に関しては、中学1年生の2学期以降行っている英字新聞（特に見出し）を中心とした語彙指導の話をしてみたい。

言葉の定着度は出会った回数と必ず比例するのだろうか。筆者はそうは考えない。何度目にしても忘れてしまう単語もあれば、ある場面でたった1度、目にし・耳にただけで覚えてしまう語があるという経験は、筆者に限らず色々な人にあるはずである。こういった経験をもとに、いかに適切な場面で語彙を提示するかが、定着度に大きく関わるとの確信のもとに、次のような指導を試みた。

1988年度は、ソウル・オリンピック、アメリカ大統領選挙、リクルート事件、消費税の導入のように国の内外でニュースとなることが多かった。この機会をいかして関連の用語の定着をはかった訳である。その結果、毎日のようにテレビ等で報道されている物の英語での表現は、驚くほど抵抗なく生徒達の頭に刻み込まれていったようである。以下にその具体例をあげておく。

- Olympic Game  
  : Olympic flame, long jump, high jump, pole vault, shot put, 100 meter dash ……
- Presidential Election  
  : President, party, vote
- Recruit Stock Scandal  
  : stock, arrest, investigate, chairman, telegraph, bribe, bribery
- Consumption tax  
  : sales tax, reform, Diet, Prime minister, ministry

今年度になっての「伊豆半島沖地震」、「連続幼女誘拐事件」等の報道も、英字新聞を使って語彙の補強に役立っている。

## 7. まとめ

以上述べてきたように、中学生が興味をもつ語彙を、具体的で目に見える物を中心にまとめた辞書を今年度中に完成させ、来年夏頃には出版する予定である。生徒の書いた文字や絵を原則としていかし、辞書作りの過程もドキュメンタリーとしてまとめて載せるつもりである。辞書を調べてもわからないものを聞いたり、自分達で書いたものを校正してもらったりという作業自体も、教室に native speaker を呼んで授業の中に組み入れていくつもりである。そこでは、本当の意味で information gap をうめるための会話がかかわられるのではなかろうか。

この「筑駒 Picture Dictionary」の著者は筆者ではない。現在の中学2年生（本校42期生）121名全員が執筆者なのである。

## REFERENCES

- 今井 邦彦 (1986) 「英語教育をよりよくする為に」 *ELEC BULLETIN 1986 Spring*
- 太田垣正義 (1987) 「語彙指導の改善」『財団法人 語学教育研究所紀要 第1号』
- 奥田 夏子 (1977) 「語彙指導とは何か」『英語教育』7月号 大修館
- 千種 基弘 (1987) 「異文化理解と語彙指導」『高校英語教育だいあるーぐ』No.8 増進堂
- 竹蓋 幸生 (1983) 「日本人の単語力には何が欠けているのか」 *The English Journal April*  
アルク
- 竹蓋 幸生 (1986) 「特集/語彙指導をどうするか」『現代英語教育』9月号 研究社
- 松原 健二 (1987) 「教科書の語彙に現実性を——中学校英語教科書の内容語を考える——」  
『英語教育』11月号 大修館
- 「言語活動を活発にするための語彙現の研究」『東京学芸大学附属学校研究紀要第5集』(1978年3月)
- 「絵で英語をおぼえよう」『NHKラジオ基礎英語』(1987年5月～1988年3月)
- Elementary Dictionary* Longman (1987)
- Photo Dictionary* Longman (1987)
- What's What* Random House (1981)
- Words* A Golden Book (1974)
- Little Golden Picture Dictionary* A Golden Book (1981)
- English Words Through Pictures* 『絵で学ぶ英単語』開隆堂 (1975)
- 『カラー図解英語百科辞典 I See All』学研
- 『目で見るアクション英単語集』Oxford University Press (1978)
- 『オックスフォード・図解米語辞典』Oxford University Press (1978)
- 『オックスフォード・図解英和辞典』Oxford University Press (1978)
- 『イラスト・中学生の英単語』開隆堂 (1987)
- 『英絵辞典・目から覚える6000単語』光文社 (1968) 岩田一男
- 「中高連携をとらえた自主教材の開発——筑駒 Picture Dictionary の作成 (1)——」『筑波大学附属駒場中・高等学校 研究報告 第27集』(1988年3月)
- 『起きてから寝るまで表現550』アルク (1989)
- 「小学校教科書から選んだ・英語で話す社会人の常識」*Active English* Feb. 1989 アルク
- Open Sesame Picture Dictionary* Oxford University Press. (1982)
- 『ジュニア・アンカー 英和・和英辞典』学研
- Richard Scarlars Best Word Book Ever* A Golden Book

### 3. P. D. を使った言語活動

熊井 信弘

#### 0. はじめに

筑駒P. D. を作成していく過程で、語いの導入や拡充が容易にできるようになった。その結果、生徒が理解できる語彙の数は大幅に増えてきている。しかしながら、こうして学習した語彙はいわゆる受け身語彙 (passive vocabulary) で、見てあるいは聞いて理解できるレベルの語彙であり、実際のコミュニケーションの場面において使える段階までにはいっていないと考えられる。学習した語いを身につけ、実際に使えるようになるためには、そうした語彙を使ってコミュニケーションを行う場を設定することが必要になる。そこで、ここでは学習した語彙を身につけ使えるようにするための言語活動について事例をまじえて述べてみたい。

#### 1. 言語活動の実践例

それでは、実際にどのような活動を行ったのか以下に述べる。中学校1年生で親族呼称と年齢の言い方・尋ね方を導入し、パターン・プラクティスなどで練習したあと次のようなコミュニケーション・ゲームを行った。

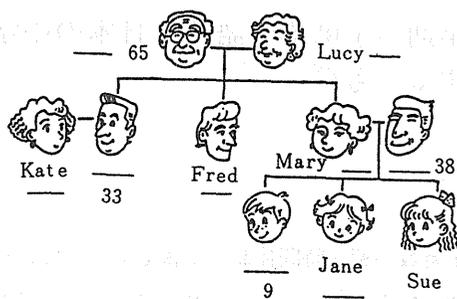
文法事項 Be 動詞, Who ~? How old ~? ~ years old.

語彙 親族呼称

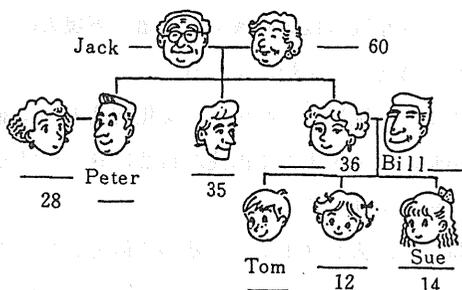
- (1) まず、生徒を2人ずつ組ませペアを作らせる。机を動かしてお互いに向き合って座らせる。40人のクラスであれば20組できる。41人のクラスの場合には教師とペアを組むか生徒3人で行うことになる。
- (2) 下記のようなカードを作り、生徒Aには Card A を、生徒Bには Card B を配る。お互いのカードは見せないように注意する。
- (3) それぞれのペアは以下のように順番に英語で質問し合い、情報を聞き出しカードに記入する。

A : Who is Sue's brother ?  
B : Tom is.  
A : T, O, M. OK.  
B : How old is Tom ?  
A : He is 9 years old.  
.....  
B : Who is Peter's wife ?  
A : Kate is. How old is Kate ?  
B : She is 28 years old.

Card A



Card B



- (4) カードのブランクを速く、正確にうめる。ペアで競争させてもよい。  
 (5) 教師はその間机間巡視し、活動が滑らかに行われるように生徒を助ける側にまわる。  
 (6) ほとんどの生徒の活動が終わったら、うめられた情報が正しいかどうか教師 (T) が生徒に次のように質問し、答えを確認する。あるいは、代表のペアにもう 1 回活動させ答え合わせをする。

T : Who is Peter's sister? How old is she?

T : Who is Tom's grandfather? How old is he?

## 2. まとめ

以上のような活動を行うことにより、目標となる語いを意味のある形で何度も繰り返し練習させることができる。ゲーム的な要素が加わっているので生徒は夢中になって活動し、無意識のうちに語いを定着させることが可能である。できればさらにこの上の発展的な活動として、お互いの家族関係 (あるいは想像上の家族) について尋ね、家系図を書いてみるというような活動も考えられよう。

こうした活動によって学習した語彙を active vocabulary に変えることができるため、今後このような言語活動を開発していきたいと考えている。

## 参考文献

熊井信弘 (1989) 「コミュニカティブな視点を取り入れたペアワーク」 豊田一男他 (1989) 「学習者に応じた授業形態——英語指導とその問題点——」 『筑波大学学校教育部紀要』 第11巻。

#### 4. 英・米の幼・少年期の児童の語彙と日本の中学校英語検定教科書の語彙の対比に関する一考察

辻 弘

日本の中学校で英語の授業時数の週3時間体制の影響もあると思われるが、検定教材に使用されている英語の表現は、語彙・構文ともに、かなり制約されたものであると考えられる。

これらの制約は、中学校における授業で展開される中味が前提となるので、或る程度は当然、やむを得ないものと思われる。

しかし、日本の中学生達が、3年間の授業の後も、英語の表現力に著しく欠ける現実を考えると、その原因は何であろうかと考えざるを得なくなる。

これらの原因は、日本の置かれた地理的、歴史的、文化的諸要因に帰因と思われるが、もう一方、教科書に使われている語彙が、英・米の児童達が自然に身につける語彙の範囲からかなり掛離れているのでは無いかとの疑問が湧いてくる。

この度、この問題意識を持って、表記タイトルに基づく研究を行って見た。

イギリスで発行され、英・米・加・オーストラリアで発売された Best Word Book Ever by Richard Scarry (Copyright Western Publishing Company Inc., 1963) には、これらの国々の幼少年が出くわすであろう（又は、幼少年達に学んで欲しいと思われる）語彙が48の項目に沿って絵と共に記述されている。

本来この全部の項目に記載された全ての語彙に当るのが筋であるが、時間的な制約もあるので、衣・食・住・学校・地域社会に当ると思われる。① The Bear Twins Get Dressed ② Mealtime ③ The Rabbit Family's House ④ At School ⑤ In the City の5つの chapters に出てくる語彙と日本の中学校英語検定教科書の語彙の対比を試してみた。

尚、対比に当っては次の点に留意した。

1. 複合語は1つとして数える。

例 Pyjama top; hair ribbon; ear muffs; snow suit etc.

2. 検定教科書の素材としては、

昭和62年度版 中学校英語教科書における語彙調査（財団法人 中央教育研究所 昭和62年4月）を用いた。

3. 従って、ここで調査された6種類の教科書に1度でも出てくれば、「日本の教科書に出て来た」と考える。語そのものによって、教科書に出てくる頻度の違いはあるが、今回の調査は6種類の教科書を合計してやっているので各1種類毎の教科書にもどった時には、頻度は更に低くなるものと考えていただきたい。

4. 一応念のために、複合語は、それを構成する単語の数に従って分けてみて、複合語を分解した場合の単語の（日本の教科書における）頻度も比べてみた。

例 waste - paper basket

0	;	0	:	5	:	0
↑		↑		↑		↑
この複合語が中 学校教科書には 存在しない		waste という 語は、教科書 に出てこない		paper という語 は、5種類の教 科書に出ている		basket という単 語は、教科書に出 てこない

従って、複合語と各単語に分解した場合は、分解しただけ Best Word Book の該当箇所の語彙数が増えることになり、もし、それらのうち、どれかの単語が教科書に存在していれば、“教科書に出てくる”単語数がそれだけ増えることになる。

しかし、複合語は本来、複合語で1つの機能を果たすのであるから、この複合語の分解はあまり意味が無いかも知れない。

以上の調査の結果は次の通りである。

Best Word Book の該当項目に出て来る単語が  
日本の中学校検定教科書に出てくる比率 %

項 目	複合語を含めた単語	複合語を各単語に分解したものを含めた単語
衣に関する語彙	34	42
食 "	30	63
住 "	38	75
学校 "	42	69
都市生活 "	28	57

以上のことから次のことが言えよう。

1. 学校生活に関する語彙については、さすがに、日本の教科書に多く出ている。
2. しかし、衣・食・住、又、都市生活という人間の基本的な面での語彙についてさえ、このような教科書出現比率であるから、現在の教科書による授業だけでは、到底、日常生活に關することですらの“自由な意志の疎通”は不可能と言うことになろう。
3. 従って、日本の学校教育における英語教育が、真に有効なものとして機能するには、質・量ともに大幅な改善が望まれるところである。

### The Bear Twins Get Dressed

	↓		↓
slippers	1	nightgown	0
pyjama(top)	0;0:5	panties	0
pyjama	0;0:1	petticoat	0
underwear	0	hair(ribbon)	0;6:0
cap	3	ear muffs	0;6:0
shirt	1	blouse	2
trousers	0	skirt	1
overalls	0	pinfore	0
tie	1	stockings	0
sweater	2	shoes	3
socks	0	snow suit	0;6:0
hat	5	(and)mitten	0
muffler	0	handkerchief	0
plimsolls	0	purse	0
glooes	3	handbag	0
jacket	1		
overcoat	0		
raincoat	1		
(and)sou wester	0		
boots	0		

Mealtime

carving knife	0;2:1	milk jus	0;6:0
and fork		mashed swede	0;0:0
roast beef	0;0:2	baked potatoes	0;1:2
meat dish	0;3:4	green beans	0;5:0
table spoon	0;6:2	beetroots	0;0:0
coffee pot	0;2:1		
teapot	0;4:1	onions	0;0:0
salt cellar	0;3:0	mashed potatoes	0;0:2
pepper pot	0;1:1	peas	0;0:0
fork	1	butter	0;0:0
knife	2	steak	1;0:0
spoon	2	salad	1;0:0
dinner plate	0;6:2	soup	3;0:0
glass	6	rye bread	0;0:6
cup	6	white bread	0;6:6
saucer	1	rolls	0;0:0
sugar bowl	0;2:0	blancmange	0;0:0
cream jus	0;0:0	cranberry jelly	0;0:0
napkin	0	ice cream	0;2:0
turkey	1	pie	1;0:0
cake	2		

# The Rabbit Family's House

woodpile	0;4:0	outside light	0;3:6
television set	0;4:2	telephone	
mirror	0	chair	6
lawn	0	stairs	1
record player	0;4:5	fireplace	0;2:6
lamp	2	floor	3
bird bath	0;6:2	front hall	0;5:1
bunk bed	0;0:6	sofa	0
bed	6	kitchen	6
stone path	0;2:0	door mat	0;6:0
boy's bedroom	0;6:6	sink	0
bedroom	1;1:6	owl	1
bathroom	1;2:5	rug	0
living room	3;4:6	back door	0;4:0
cupboard	0;6:1	smoke	0
landing	0	window	6
candle	2	axe	0
dining room	0;0:6	television aerial	0;4:0
front door	0;5:6	stove	0
picture	6	light switch	0;6:0
table	6		

At School

pencil	0 6	map	3
drawing pins	0;6:0	straw	1
pen	0 6	map stand	0;3:1
modelling clay	0 0;2:0	milk	6
ball-point pen	0;4:1:6	waste-paper basket	0;0:6:1
lost-clothing drawer	0 0;1:0:0	biscuit	0
<ball pen>	0 1	artist	0
pencil sharpner	0;6:0	scissors	0
clock	0 1	map	1
chalk	0 0	string	1
bell	0 0 1	desk	6
notebook	0;6:0	yarn	0
blackboard	0 1;5:1	classroom	6;6:6
blackboard rubber	0 0;1:0	paper clip	0 0;6:0
calender	0 1	paperdolls	0;6:3
paper	0 6	paste	0
teacher	0;0:6	handmaster	0 0;6:2
ink	0 0	exercise book	0 0;1:6
inkwell	0;0:0	storybook	0;6:6
pencil rubber	0;6:0		

In the City

At School

sky scraper	0	0;6:0	manhole	0	0	pencil
restaurant	1	1	book publisher	0;0	0;6:0	drawer
pavement	1;0:0	0	taxi	0	2	pen
aerial antenna	0	0	editor	0;0:0	0	modeling clay
hotel	1;0:0	1	barber's shop	0;4:0	0;0:5	ball point pen
underground entrance	0	0;0:0	costumes	0;0:1:0	0	lost clothing drawer
subway entrance	0	0;0:0	cafe	1	0	chair
church	0	1	newspaper office	0	0;6:3	pencil sharpener
street sign	1	0;6:4	delivery man	1	0;0:6	clock
newspapers	1	6	dancing school	0	0;1:6	chalk
telephone box	0	0;1:6	police car	1	0;2:6	bell
park	0	6	book shop	0	0;6:5	notebook
newsagent	0;0:0	0;6:0	bus	1;0:1	6	blackboard
street	0;0:0	6	chemist	0;0:1:0	0	blackboard rubber
park bench	0;0:0	0;6:0	flats	1	0	calendar
underground station	0	0;0:6	taxi	0	2	paper
van(大型有蓋トラック)	0		traffic light	0	0;0:6	teacher
statue<the statue of	3		theatre	0	0	ink
liberty 2>	0;0:0	0;0:6		0;0:0		inkwell
				0;0:0		pencil rubber